

第4回「地方独立行政法人北九州市立病院機構評価委員会」の開催結果について

- 1 開催日時** 平成30年10月29日（月）15：30～17：00
- 2 開催場所** 北九州国際展示場・AIMビル3階 314・315会議室
- 3 出席者** 近藤委員長、小松委員、下河邊委員、田中委員、松木委員、吉田委員
※欠席委員 赤木委員、花岡委員
- 4 内容** (1) 中期目標（修正版）について
(2) 中期計画（たたき台）について

5 会議要旨**(1) 中期目標（修正版）について**

事務局より「中期目標（修正版）」について説明。

原案どおり全会一致で承認された。

なお、市長への意見書提出の手続き等については、委員長に一任された。

(2) 中期計画（たたき台）について

事務局より「中期計画（たたき台）」について説明。

委員より、以下の意見が示された。

○吉田委員（よしだ小児科医院・理事長）

- ・医療人として、働き方のことや女性医師に関して言及している点は有難い。
- ・また、資格取得や研修に関する記載については、向上心を持続させることが重要であり評価できる。（中期計画たたき台：P7、8）
- ・この中期計画ができた後、災害に対応する医療機関などを示した防災地図等を市民に示すことになるのか。（中期計画たたき台：P3）
→災害時の医療提供体制等に関する情報に市民がアクセスできるようにするとともに、市民の被災状況を把握し、必要な医療資源を確実に提供できる仕組みを構築していきたい。（八幡病院・伊藤院長職務代理者）

○松木委員（松木公認会計士税理士事務所・所長）

- ・独法化後は、公認会計士による会計監査を毎年受けなければならない。会計監査には数百万の費用が必要になるし、システムの保守も必要になるので、そうした費用等も含めた計画づくりをお願いしたい。（中期計画たたき台：P20）
- ・公立病院として確実に収益を確保する手段は限られており、いかに病床利用率を上げるかが大事だと思うが、公立病院としてどのように病床利用率を確保していこうと考えているのか。（中期計画たたき台：P14）

→病床利用率の目標設定にあたっては、政策医療の病床と、民間病院と同様の一般病床とを分けて考えている。一般病床については、目標管理の徹底やベッドコントロールの効率化等により、病床利用率を向上させていく考え。(事務局)

○小松委員 (北九州手をつなぐ育成会・理事長)

- ・中期計画たたき台は、第1回目としては、全体的にきちんと出来ていると思う。
- ・「第3 業務運営の改善及び効率化」の部分は、次のステップとして、5年後に目指すゴールに向けて各年度の具体的な行動計画をつくることになると思うが、それが架空の数字にならないように丁寧にやって頂きたい。また、中には数値目標を設定できないものがあると思うが、その場合は何を代替りの指標にするかが重要だと思う。
- ・独法化後は、経営改善が出来ていると市民が実感できるよう、目標設定をしっかりとお願いしたい。(中期計画たたき台：P 14～19)
- ・独法化にあたって忘れて欲しくないのは、職員一人一人の経営意識。そのことをどのように中期計画に盛り込むかがたいへん重要だと思う。他人事という意識では、独法化してもうまくいかないと思う。この部分は、市立病院が弱いところだと思うので、現実をしっかりと見つめて、中期計画に盛り込んでいただきたい。(たたき台：P 18)
- ・第三者評価については、経費も必要になる。高度医療を受ければよいという単純なものではないと思うので、費用対効果を考えていただきたい。(たたき台：P 10)

○田中委員 (下関市立市民病院・理事長)

- ・8ページの関連指標の「後期臨床研修医」は、「専攻医」という呼称に替わっている。
- ・全体として、非常に簡潔だが、理想を多くちりばめた、大変素晴らしい中期計画だと思う。
- ・6ページの小児慢性特定疾病児童等の一時的な預かりは実際にやっているのか。
→実際にやっている。(八幡病院・伊藤院長職務代理者)
- ・手術支援ロボットはすごくお金がかかる。「導入を検討する」と記載しており、これから検討するのだろうが、思ったほど稼げないし、経営を圧迫するのは間違いないので、導入にあたっては十分検討する必要がある。(中期計画たたき台：P 4)
- ・14ページの「ハイブリッドオペレーションルーム」とはどのようなものか。
→今回、新病院で設置した「ハイブリッドオペレーションルーム」は、一般の手術室の中に血管造影装置とCTを組み合わせたもの。(八幡病院事務局)
- ・そのほかは非常によくできた計画だと思う。

○近藤委員長 (北九州市立大学・特任教授・前学長)

- ・独法化後は、法律上、当評価委員会による評価を行うことになるため、第三者機関による評価を受ける場合は、内容が重複して法人の負担にならないよう、評価内容のすみ分けが必要だと思う。今後の課題として留意して欲しい。(中期計画たたき台：P 10)
- ・独法化後は、市の派遣職員とプロパー職員の協力が必要になるが、北九州市立大学では、独法化直後はプロパー職員1・2名だったが、第2期の中期計画で「50%程度」という数値目標を立て、現在は50%より少し増えているという段階。
ただ、プロパー化は、職員の能力開発やキャリアパスが非常に難しい。他都市を参考にするのは結構だが、市独自のプランニングが必要になってくると思うので、数値目標を設定する場合は、ある程度の幅を考えながら慎重にやっていただきたい。(たたき台：P 15)

- ・看護専門学校については、「市立病院のあり方検討会議」の際に「非常に重要だから残して欲しい」という意見があり、それを受けて今回の中期目標に盛り込むことになったと思う。将来的には、看護専門学校のあり方については、当然検討することになると思うが、この5年間は、現状を維持しつつ経営改善に向けて努力されると思う。独法化後は、1法人2病院という形の中で、この看護専門学校の位置付けはどうなるのか。また、各病院は、収支の黒字化に向けた数値目標等も設定されることになるが、看護専門学校の取扱いはどうなるのか。(中期計画たたき台：P21)
- 看護専門学校については、学校法人ではなく「看護師養成所」という位置付けであり、現在の病院局本庁と同様、法人本部が運営していくことになる。また、病院ごとの数値目標を設定する際は、看護専門学校や本部の収支を含める必要があるため、病床数で按分したものを各病院に計上した上で、各病院の数値目標を設定することになる。(事務局)
- ・将来的には、当評価委員会が評価していくことになるので、評価がやりやすいように整理していただきたい。

○下河邊委員（北九州市医師会・会長）

- ・先週、政令市の医師会の会議があったが、どこも看護学校の運営は赤字のようだ。特に、福岡県は看護大学が多い上、北九州市は医師会立の看護学校が4つある。医師会の看護学校についても、将来的にどうするか、市立の看護学校と一緒に、市全体で考えていかなければならないと思っている。(中期計画たたき台：P21)
- ・田中委員からも指摘があったが、手術支援ロボットはすごくお金がかかる。民間の立場では「はい導入します」とは言えない。その他、がん医療に関する設備投資は、放射線治療の機器も3～5年単位で替える必要があるし、メンテナンスにもお金がかかる。民間病院でも苦勞しているところ。(中期計画たたき台：P4)
- ・今回の独法化は、医療センター、八幡病院、門司病院という3つの病院の機能分化をどうしていくかが重要。それぞれ病院の立場があるだろうが、病床数や病床利用率の現状を見ると、今後これをどう精査していくかは非常に大きな問題だと、危惧している。
- ・独法化後、市民目線でどのように運営していくのか、両病院のトップの意見を聞きながらこの委員会で議論していきたい。

(3) 委員長まとめ

○近藤委員長（北九州市立大学・特任教授・前学長）

今日は、中期計画の初回ということで、それぞれの立場から意見を出してもらったが、時間が限られていたので、他にも色々な意見があると思う。また、今日は2人の委員が欠席しているが、欠席した委員も色々な意見があると思う。事務局は、後日、そうした意見を集約し、次回は、この中期計画（たたき台）の修正案を示していただきたい。